

## 2016 年秋季学術講演会 シンポジウム「学習意欲向上のための授業改善 ～能動的学習に向けた実践事例について～」報告

「1.2 教育」では、分科企画シンポジウムは会期 2 日目の 13 日(火)午後を開催しました。今回のテーマは、「学習意欲向上のための授業改善 ～能動的学習に向けた実践事例について～」とし、6 件の招待講演と一般講演 1 件の発表が行われました。また、参加者も講演を熱心に聞いて下さり、活発な質疑応答がなされました。招待講演では、長年アメリカでアクティブ・ラーニングに取り組み、実践的な経験が豊富な新潟大学の土佐先生、CompTIA CTT+を活用した高専教員の教授スキル向上の取り組みについて株式会社ウチダ人材開発センターの上田あゆ美先生、学生が能動的になる教育環境の設計、施工についてパワープレイス株式会社の濱村道治先生、電気電子システム工学科の実験実習で学生が能動的になる場面や工夫を豊富に盛り込んだ事例紹介について八戸工業大学の信山先生、高専初の 4 学期制導入と授業なしの秋学期を積極的に活用した自主探求学習について八戸高専の工藤隆男先生、CGI を活用した Web レスポンスシステム試作と大学化学教育での利用について鳴門教育大学の武田先生から、限られた時間の中で大変貴重なご講演をいただきました。また、一般講演では、想定読者を意識した執筆指導について福井大学の葛生先生からもご講演もいただきました。7 つのご講演を通じて、学生が能動的になる工夫が随所に見られ、学生の思考の深化が学習意欲や達成感・成就感を生み出していることを理解することができました。また、このような学生のやりがいを引き出すためには、授業者の意識改革が重要であることも強く感じました。※写真は招待講演者で、紙面左側から、土佐先生、上田先生、濱村先生、信山先生、工藤先生、武田先生の順（プログラム編集委員、八戸高専・吉田）

